海外研修　様式第２号

2025 年　　8 月　　28 日

武蔵野美術大学　学長　殿

海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

氏名	松河直美	所属	油絵研究室
		職位	助教

研究課題	北欧における造形物と自然の関係について
研究先機関	美術館・博物館
主な滞在地 （国・都市名）	フィンランド・ヘルシンキ、ノルウェー・オスロ
渡航日程	2025 年　8 月　4 日　～2025 年　8 月 18 日（　15　日間）
研究目的・理由	自身の制作に影響を与えた北欧の作家たちの作品鑑賞、及び北欧の文化・歴史・自然をリサーチし、それらと造形物との関係について考察を行い自身の制作への応用を試みる。
研究成果発表予定 （展覧会、著書、 論文発表等）	2025 年 12 月に武蔵野美術大学 FAL にて開催予定の研究成果発表展

研究内容	今回の海外研修では、フィンランド、ノルウェーへ渡航した。 ・フィンランド　ヘルシンキ 都市近辺の美術館・教会に訪れた。 教会については、テンペリアウキオ教会、カンピ礼拝堂、を訪れた。ルーテル派が大多数のフインランドは、カトリックの豪華な教会とは異なり自然を活かしたデザインの教会が多く落ち着いた雰囲気であった。 テンペリアウキオ教会は、「ロックチャーチ」と呼ばれており岩の中に建設されている。 ヘルシンキビエンナーレが開催されていたので、会場の一部であるヘルシンキ市立美術館とスオメリンナ公園の作品を鑑賞した。フィンランドの雄大な自然を感じられる大規模で洗練された作品が展示されていた。 国立現代美術館キアズマでは、コレクション展のほかに２名の作家の企画展が開催されていた。 なお、アテネウム美術館は、フィンランドでも最大規模の美術館であるが、フィンランド美術だけではなく１９世紀～２０世紀の海外の作家の作品も数多く鑑賞する事ができた。 テンペリアウキオ教会 ヘルシンキ大聖堂 ヘルシンキ市立美術館 国立現代美術館キアズマ Monira Al Qadiri ・フィンランド　タンペレ ヘルシンキから特急で１時間移動してタンペレにあるムーミン美術館を訪れた。児童小説「ムーミンと愉快な仲間たち」（トーベ・ヤンソン作）を中心に物語やそのキャラクター、作者自身についての資料が展示されていた。 作者とそのパートナーが制作したムーミン屋敷の模型は高さ約２m ほどあり、其々の素材にも拘って制作されていた。また、ムーミンの物語だけではなく作者の生涯やその時代背景を知ることで、作家と創作物、そしてその作家が生きた社会との結びつきの強さを感じた。

研究内容

ムーミン美術館内部

※ ムーミン美術館は複合施設の中にある。

・ノルウェー　オスロ
オスロ近辺では多くの博物館や美術館に訪れた。

・最初にムンク美術館を訪れた。ムンクの「叫び」を始めとする代表作から初期の作品、国外ではなかなか見る事のできない晩期の大作も鑑賞する事ができた。また、始めの展示室にムンクに纏わる道具やムンクの生きた時代の背景がわかる資料が多く展示されていたので、作家自身に起こったことやその時代の状況を、思い起こしながら作品を鑑賞する事ができた。

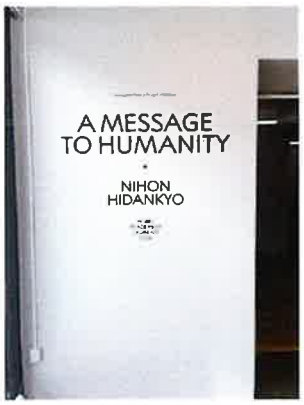
・国立博物館に行く際、道中にノーベル平和賞記念センターがあったので訪問。主にノーベル平和賞についての説明及びこれまでの受賞者についての展示であった。2024 年度に受賞した日本被爆協会についての企画展が行われており、「はだしのゲン」（中沢啓治作）の原爆が投下されるシーンが映像資料として展示されていた。

・国立美術館では、古代から現代までのノルウェーの人々の暮らしと北欧の作家を中心とした美術作品を鑑賞した。内容は、美術品だけではなく、時代ごとの家具やタペストリー、装身具、など多岐に渡り資料の豊富さに驚いた。絵画のコーナーでは Finn Faborg という作家の作品が特に印象に残った。

・歴史博物館では、ヴァイキングの文化や中世の信仰についてなどノルウェー及び北欧の文化に纏わる資料を見ることができた。中でもノルウェーの木造教会であるスターヴ教会の天井の展示は圧巻であった。

ムンク美術館

国立歴史博物館



ノーベル平和賞記念センター

研究内容

・ヴィーゲラン美術館・ヴィーゲラン公園

ノルウェー出身の彫刻家グスタヴ・ヴィーゲランの美術館と２１２点ものヴィーゲランの作品が鑑賞できる公園を訪れた。美術館では、デビュー時の作品も多数鑑賞する事ができた。公園にある作品の石膏型の作品が美術館にも展示されており、同じ作品を異なる空間で２回鑑賞したので、展示空間と作品の関係性について改めて考える機会となった。

ヴィーゲラン美術館

ヴィーゲラン公園

・ノルウェー　アルタ

北極圏に位置する街アルタでは、アルタ博物館を訪れた。ユネスコ文化遺産に登録されているアルタの岩絵を中心として原始時代の北極圏の環境や地殻の変遷、先住民族であるサーミ人の文化や歴史についての資料を見る事ができた。

岩絵は屋外にあり、ハイキングのコースのように鑑賞ルートが設けられ、その道中に展示されていた。保存のために着色されている岩絵と、そうでないものとあり、自然光の変化と共に影と光の効果で図像が浮かんだり消えたりする様子が美しかった。

上部の赤い部分は着色された岩絵

アルタフィヨルド

着色されていない岩絵

大学授業における 研究成果の還元	研究を元に作品を制作・発表し学生へ還元する。

研究日程（全滞在期間）

出発日 （現地時間）	出発地 （国・都市名）	到着日 （現地時間）	到着地 （国・都市名）	研究内容等	滞在 日数
8月4日	日本・東京	8月5日	フィンランド・ヘルシンキ	美術館・教会訪問	4
8月9日	フィンランド・ヘルシンキ	8月9日	ノルウェー・オスロ	美術館・博物館訪問	5
8月14日	ノルウェー・オスロ	8月16日	ノルウェー・アルタ	博物館訪問	3
8月16日	ノルウェー・アルタ	8月16日	ノルウェー・オスロ	日本帰国のため移動	1
8月17日	ノルウェー・オスロ	8月18日	日本・東京	日本帰国のため移動	2